

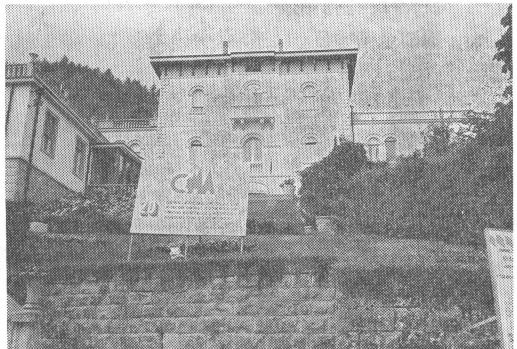
アルパイン気象の国際研究集会に参加して*

(第20回 '89 イタリア)

石島 英**

1. はじめに

筆者は、勤務先の国際交流基金の旅費補助をいただき、1988年9月18～25日にイタリア、モデナのセストラという山村でもたれた表題の国際研究集会に参加しました。その時の印象記を早い機会に報告しておきたいと思っておりましたが、それを果さないうちに、最近、次の第21回研究集会への招待を受けました。これを機会にと思い、昨年出席したときの印象をつづっておきます。かような国際研究集会に関心のある他の気象学会員や山の風物愛好者のみなさんになんらかの参考になれば幸いです。



イタリア、モデナ、セストラの研究集会場の遠景

2. 会の開催場所など

もともとアルプス地方のフェーンとかボラなどに現地近くの研究者が関心をもちだしたことがこの研究会のおこりと考えられます。しかし、いまでは山岳地形効果により起こるさまざまな気象や気候についての関心のある研究者がいろんな国々から集まっているようであります。

この会は隔年おきに開催されているようで、第18回目はユーゴスラビア、19回目はオーストリアで開催されたようであります。次回(1990年)にはスイスで予定されています。筆者の出席した第20回の研究会は、長靴状イタリア地形の北東部にある標高約1,000メートルの静かな山村で、イタリア気象庁により開催されました。この山村は有名な環境実験観測所のあるシモネ山の近くであり、冬はスポーツやレジャーの行楽地になっているようであります。

研究会への参加者は当然ながらアルプス山脈周辺のイ

タリア、ユーゴスラビア、スイス、ドイツ、オーストリアなどから多かったようであります。しかし遠くは、米国、メキシコ、中国からも一人～数名の参加がありました。日本からは(日本語を話せる者)筆者だけでしたが、会の席で米国滞在の佐々木さんにあつたのをおぼえています。参加者の合計は約230名の公立研究機関や一般企業の研究者でありました。

発表講演数は約140題でありました。研究発表会では発表者も聴衆者もすべて、同時通訳者を介した Interpreter equipment が利用でき、フランス語、ドイツ語、英語、イタリア語のいずれでも参加できました。

3. 研究発表内容

講演は下記の8つのカテゴリーに分類されて発表されました。

記号	分野内容 () 内は講演数
CL	一般的な気候統計 (27)
SC	綜観気象、解析、予測、現象例 (5)
NG	氷河現象と水利気象 (4)
MN	数値モデル、客観解析、ALPEX 結果 PBL 問題 (26)

* Participation in International Conferenclon Alpine meteorology.

** Suguru Ishijima, 琉球大学短期大学部.

TM	メソスケール現象, ナウキャストイング 観測方法と計器	(27)
IQ	大気汚染, 放射, エネルギー収支	(16)
MU	山岳気象, 山岳地域の環境, 人間活動, 生気象	(18)
VA	その他	(2)

講演数の分布からわかるように、研究発表の多くは地形関連で誘起するメソスケールの気象や気候のケーススタディや数値実験でありました。数値実験の分野ではパソコンによるある地方の降水量を予報する発表などがありました。発表内容のレベルは山岳効果についての第一線の研究といえるものからレベルにこだわらない山岳気象についての啓蒙的な研究まで広範囲にわたっての発表がありました。講演の要旨集は下記の表題で、

SESTOLA (MODENA), ITALY-18~25 SEPT
1988 20th International Conference on Alpine
Meteorology (20th I.C.A.M. '88)

REPRINT VOLUME OF ABSTRACTS として、事前に各参加者に配布されました。

4. 第21回研究集会へのお誘い

国際化、情報化、地球環境の危機などの話題が誰の耳

ITAM-90, September 17 to 21, 1990 in Engelberg, Switzerland

Dear colleagues,

On behalf of the Swiss Meteorological Institute we have the pleasure to announce the

21st International Conference on Alpine Meteorology (ITAM-90)

which will take place in Engelberg (Central Switzerland) on September 17 to 21, 1990 (with an excursion on the 22nd).

The summer and winter resort of Engelberg is situated at a height of 1000 m MSL on the north side of the Alps in the central part of Switzerland. Several cable cars provide access to the surrounding mountains (e.g. Titlis, 3008 m MSL). Engelberg is reached via Lucerne within 2 to 3 hours by train or in 2 hours by car from Zürich.

(中略)

We invite you now to announce your oral or poster presentation for ITAM-90 with the enclosed form. You will find further details in the separate Call for Papers. We would be very grateful if you could spread this information to your colleagues who have not received this letter.

The general Conference Invitation with more details on the programme, the place, the accommodation and the organized events will be sent out with the 2nd Announcement by end of February 1990.

10.1.1990 Deadline for the announcement of an oral presentation or poster with abstract

28.2.1990 -Report to authors about acceptance of the contributions

-2nd Announcement: Conference Invitation

にも入る時代になりました。地球はいまや地球全体としてとらえなければならなくなり、またそれが可能になりつつあります。山や海は地球のどこにでもあります。これまでは、それらがひき起こす気象や気候について、その地方、その国々の人々が対処してきました。ところが、日本では文明開化のほこ先が海浜地域にむけられ、気象の研究も海岸に近い平坦地にかたよる傾向があったように思います。日本は衆知のように昔から年々のように台風の上陸や、梅雨や秋雨時期の前線に伴う気象変化によってさまざまな被害をうけてきております。こういう点にたつて考えると、日本のわたし達ももっと山や地形を身近なものとして研究し、山岳地に快適に居住する工夫などについての関心を高める必要があると思われまふ。第21回の研究集会はスイスの気象庁によりアルプス北部のエンゲルベルグで開かれる予定であります。遠隔の地で旅費の工面が大変だと思ひますが、研究をかねレジャーをかね命の洗濯をかねた人生旅行と考えれば、十分参加に値するように思ひます。こんなわけで、筆者のところにとどいた、スイス気象庁からの参加案内を掲載し、参考に供したいと思ひます。

31. 5. 1990 Registration deadline ITAM-90
 15. 6. 1990 Deadline for sending papers and extended abstracts
 15. 7. 1990 3rd Announcement to participants: Conference Programme

Inquiries and propositions about ITAM-90 should be directed to Dr. Th. Gutermann, ITAM-90 (address: see letterhead).

We thank you for your interest and look forward to greet many participants in September 1990 at Engelberg.

Dr. A. Junod, Director
 Swiss Meteorological Institute

「気象研究ノート」在庫案内

第163号(1988年8月)

局地循環

- 1 局地循環序論……………荒川 正一
- 2 局地循環の力学……………木村 竜治
- 3 局地循環の数値シミュレーション……………木村富士男
- 4 関東地方の局地循環(I)……………原田 朗
- 5 関東地方の局地循環(II)……………藤部 文昭
- 6 瀬戸内東部の局地循環……………佐藤 謙
- 7 瀬戸内西部の局地循環……………宮田 賢二
- 8 雪氷域の局地循環……………小林 俊一
- 9 山岳地域の局地循環……………大畑 哲夫

第164号(1988年10月)

気象工学

- 新しい気象制御の方法—
 ………………福田 矩彦

第166号(1989年3月)

応用気象問題における地形因子解析の応用

- ……………正務 章
1. 地形因子の定義
 2. 任意未観測地点における月間有効包蔵水量

の推定方法の解析

3. 山岳地域の任意未観測地点における月平均風速の推定方法の拡張解析と風力エネルギー密度の算定への応用
4. 河川流域における土砂災害発生危険度予測システムの開発調査
5. 任意地点における水稻生育ステージの予測システムの調査

第167号(1989年9月)

水循環と水収支

1. 水循環と水収支研究の現状……………榎根 勇
2. 遮 断……………田瀬 則雄
3. 蒸 発 散……………中川 慎治
4. 浸 透……………佐倉 保夫
5. 地不水循環……………嶋田 純
6. 流 出……………田中 正
7. 土壌水の水収支……………開発 一郎
8. 地不水の水収支……………近藤 昭彦
9. 都市域の水収支……………吉越 昭久
10. 林地の水収支……………谷 誠
11. 渦沿の水収支……………佐藤 芳穂
12. 世界の水収支・日本の水収支……………榎根 勇